

東日本大震災復興支援の取り組み

双日グループは、東日本大震災からの復興に向けて、企業理念における誠実と社会への貢献の精神に基づき、人や地域社会の未来への活力をテーマに、当グループのリソースを活用した支援活動を継続的に実施していきます。ここでは、その取り組みの一部についてご紹介します。

▶ 双日復興支援教育基金

被災した大学生の支援を目的に総額5億円の基金を設立し、今後8年間で合計150名に対して、卒業まで最大4年間の奨学金を付与します。第1期の奨学生30名を決定し、9月より奨学金の支給を開始しました。加えて10月に追加募集を行い、第1期生は最終的に50名を超える予定です。

▶ 水産加工事業を再建

東日本大震災に伴う津波により工場や倉庫などが被害に遭い、その後生産を停止していた双日食料水産株式会社は、工場を岩手県釜石市に再建し、生産を再開することを決定しました。新工場は2012年2月の完成を予定しています。

▶ 役職員ボランティア支援制度

役職員によるボランティア活動を支援するため、ボランティア休暇および費用補助の制度を2011年6月1日より導入しました。グループ会社への制度導入も進めています。また、10月から役職員による被災地ボランティアツアーも実施しています。



▶ 「ふくしまマルシェ」



2011年7月、風評被害に悩む福島県の支援を目的に、東京本社において福島県の物産品販売イベント「ふくしまマルシェ」を開催しました。当日は300名を超える役職員が来場しにぎわいました。今後も東日本の物産品の販売促進を継続的に行っていきます。

▶ 義援金(支援金)を拠出

双日グループとして1億円の支援を行いました。また、国内外の双日グループの役職員による募金を行い、約1,600万円を拠出しました。これらの義援金は、各国の赤十字社や被災地で活動するNGOなどに寄付しています。

▶ 乗用車の寄贈

岩手県大槌町役場およびNPO法人「遠野まごころネット」に対して合計12台の車両を寄贈し、保健師や栄養士の仮設住宅訪問やボランティアの送迎等に活用いただいております。



■詳しくは <http://www.sojitz.com/jp/csr/contribute/shinsai.html> をご覧ください。

株主通信

2011
冬号

P16のアンケートにご協力ください。
抽選で
1,000名さまに
クオカード(500円分)
をプレゼント

2012年3月期 第2四半期決算を発表。

当社業績は堅調に推移しております。



New way, New value

双日グループは、誠実な心で世界の経済や文化、人々の心を結び、新たな豊かさを築きつづけます。

社長メッセージ

株主の皆さまにおかれましては
日頃よりご支援とご厚情を賜り厚く御礼申し
上げます。

2011年は東日本大震災をはじめとした
世界各地での自然災害、欧米の財政問題
など厳しい環境が続いておりますが、
中期経営計画『Shine 2011』で
取り組んできた収益基盤強化をステップに、
引き続き持続的成長に向けた取り組みを
進めてまいります。

代表取締役社長

加瀬 豊

2012年3月期 第2四半期決算・中間配当について

このたび、2012年3月期 第2四半期の決算を発表
いたしました。第2四半期累計での連結経常利益
は前年同期比16億円増益の238億円となりまし
た。連結当期純利益についても前年同期比12億円
の増益となる103億円となり、通期見通しの160億
円に対して、64%の進捗となりました。これはアジア
を中心とした新興国の成長を背景に、当社の取扱商
品についても価格の上昇や需要が増加したもので、
中期経営計画『Shine 2011』で当社が取り組んでき
た収益基盤強化の成果が着実に出てきたと考えて
おります。

なお、中間配当につきましては、期初の予定どお
り、1株当たり1円50銭といたしました。また、年間
3円(中間1円50銭・期末1円50銭)の配当見通し
も変更しておりません。

2012年3月期通期見通し・今期末に向けて

第2四半期までの業績は順調に推移してまいりま
したが、欧米の財政問題による不透明感、円高・株安
の長期化、タイで発生した洪水の影響など、今後の動
向について注視が必要となっていることから、通期の
業績見通しについては、期初に発表いたしました連

結経常利益460億円、連結当期純利益160億円を、
ともに据え置きとさせていただきます。

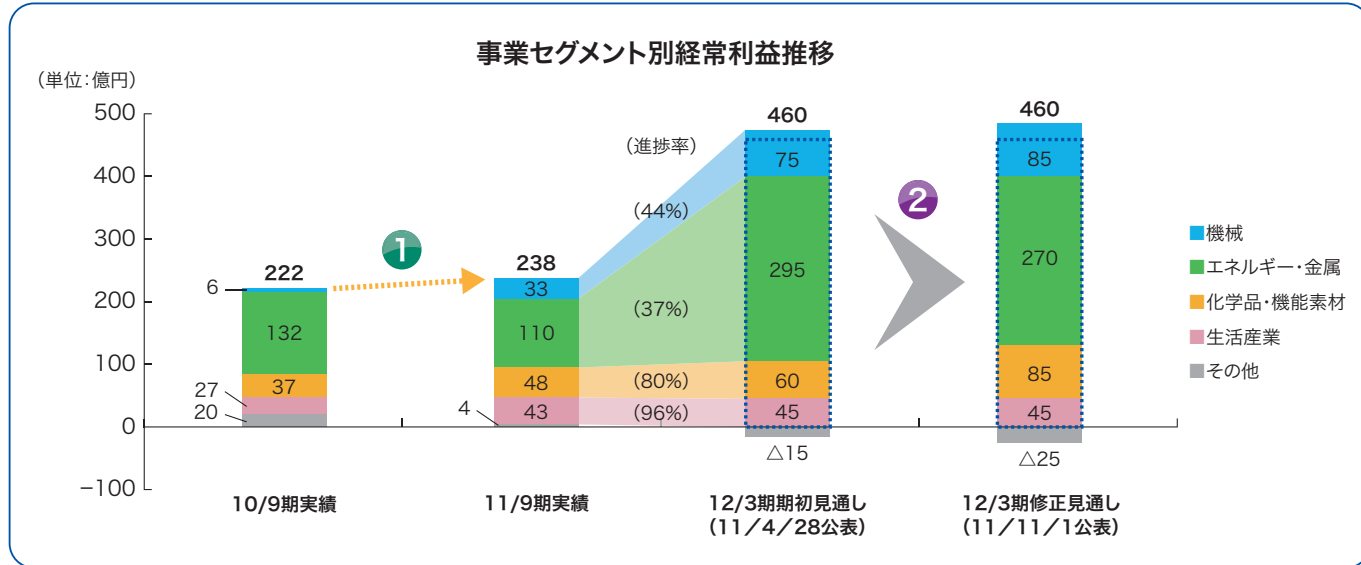
中期経営計画『Shine 2011』では、持続的成長を
担保する強固な収益基盤を確立するため、事業基
盤の足場固めとともに、成長が見込める地域・分野
への積極的な展開を進めてまいりました。その結
果、前期は全事業部門が経常黒字となり、当第2四
半期まで非資源分野が順調に進捗するなど、事業
基盤は着実に回復してきております。さらに将来に
向け、ベトナムでの配合飼料の生産・販売事業、工
業団地開発やアフリカでの木材チップ製造事業な
ど、当社が強みを持つ地域、注力している地域での
積極的な取り組みや、中国での石灰製造事業に参
画するなど、市場の伸びが期待できる地域・分野で
の展開、ドイツで最大規模となる太陽光発電事業
など環境関連への取り組みを進めてまいりました。

今期は『Shine 2011』の締めくくりとして、株主の皆
さまに持続的成長への道筋をお示しし、当社グルー
プの将来をご期待いただけるよう、通期見通しを着
実に達成するとともに、良質な資産を積み上げ、更な
る成長に導く収益基盤を構築してまいります。

引き続き、当社グループへのご理解とご支援を賜り
ますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

持続的な成長に向けて

1 Shine 2011の進捗



1 非資源分野の収益増加で前年同期を上回る実績

前年同期比増減要因

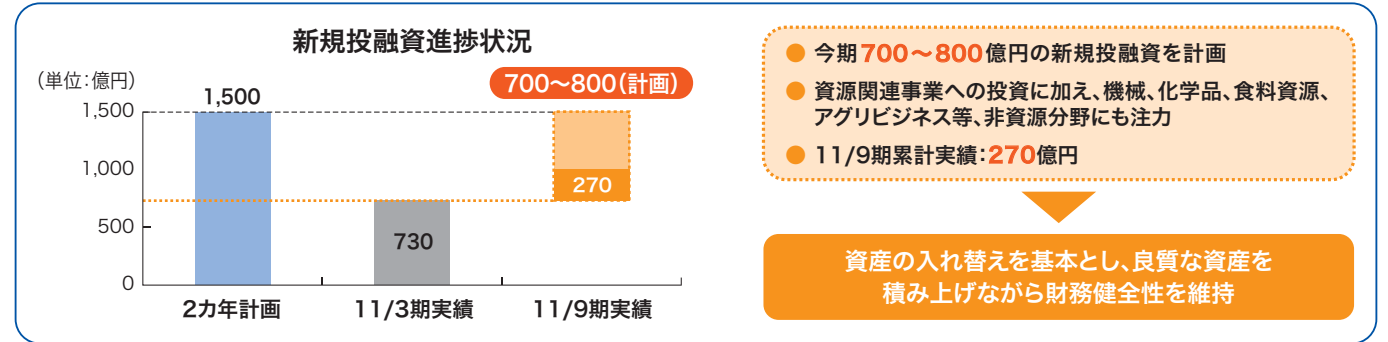
- **機械 (増減額+27億円)**
中南米、ロシア・NISの自動車事業子会社の販売台数の増加等
- **エネルギー・金属 (増減額△22億円)**
持分法投資利益の減少等
- **化学品・機能素材 (増減額+11億円)**
アジア地域の需要増加による取扱数量増加、販売価格上昇等
- **生活産業 (増減額+16億円)**
木材関連取引等の増加
- **その他 (増減額△16億円)**
不動産関連の評価損計上により減益

2 足元の状況を踏まえ、事業セグメントの通期見通しを修正

修正要因

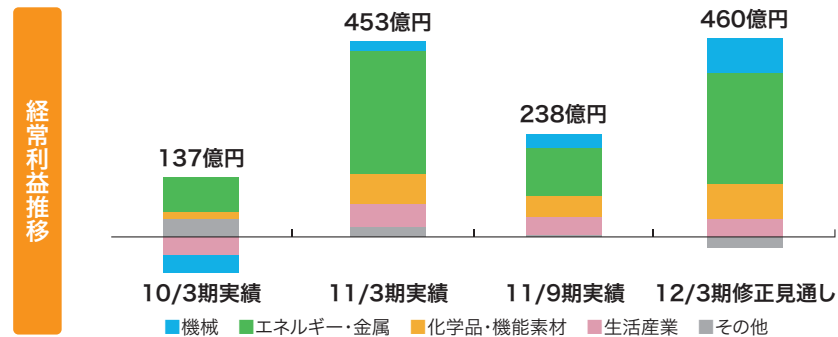
- **機械 (+10億円上方修正)**
中南米、ロシア・NISの自動車事業子会社の上期業績が想定以上に順調に進捗
- **エネルギー・金属 (△25億円下方修正)**
持分法投資利益の減少、市況下落等
- **化学品・機能素材 (+25億円上方修正)**
アジア地域の需要増加による取扱数量増加、販売価格上昇等
- **生活産業 (-)**
下期にタイ肥料事業の洪水の影響や上期好調の木材関連取引の反動減等を見込む
- **その他 (△10億円下方修正)**
上期に不動産関連の評価損を計上

2 新規投融資



3 持続的な成長に向けて

● 資産の入れ替えにより良質な事業・資産の積み上げ



収益基盤強化

- **エネルギー・金属資源権益の拡充**
石炭・レアメタル等資源関連権益の新規獲得、既存権益の拡張
- **注力事業の強化**
自動車事業の業績改善、化学品関連事業の事業投資、IPP事業の拡大等
- **新規事業育成**
環境・新エネルギー、アグリビジネスへの取り組み

営業収益力回復で持続的成長へ

決算のご報告

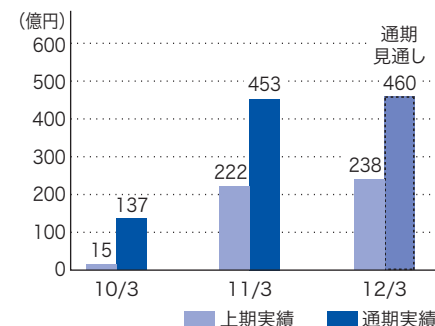
連結損益計算書及び連結包括利益計算書(要旨) (億円)

	2012年3月期 第2四半期 (2011.4.1~2011.9.30)	2011年3月期 第2四半期 (2010.4.1~2010.9.30)	増減額
売上高	21,957	19,652	2,305
売上総利益	1,022	937	85
販売費及び一般管理費	△ 795	△ 763	△ 32
営業利益	227	174	53
経常利益	238	222	16
当期純利益	103	91	12
包括利益	△ 53	△ 188	135

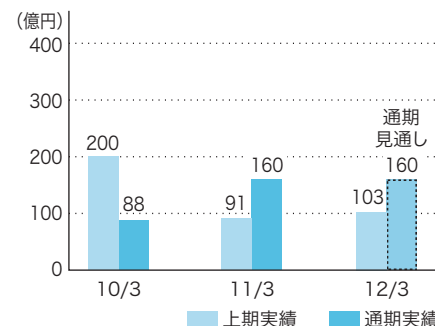
連結貸借対照表(要旨) (億円)

	2012年3月期 第2四半期末 (2011.9.30現在)	2011年3月期 期末 (2011.3.31現在)	増減額
流動資産	12,970	12,667	303
固定資産	8,414	8,500	△ 86
繰延資産	3	3	0
総資産	21,387	21,170	217
流動負債	9,777	8,906	871
固定負債	8,109	8,709	△ 600
純資産	3,501	3,555	△ 54
負債及び純資産	21,387	21,170	217

経常利益



当期純利益



POINT 決算の主要特徴点

アジアを中心とした新興国の堅調な成長を背景に、当社の取扱商品についても、価格の上昇や需要の増加があったことにより、当第2四半期の業績は、前年同期に比較し、売上高、売上総利益、経常利益、当期純利益ともに増収、増益となりました。

POINT 資産

受取手形及び売掛金、たな卸資産の増加、および、事業会社における設備投資等による有形固定資産の増加などにより、増加いたしました。

POINT 負債

支払手形及び買掛金の増加、および、社債発行などによる有利子負債の増加により、増加いたしました。

POINT 純資産

当期純利益による増加はあったものの、株価の変動による、その他有価証券評価差額金の減少などにより、減少いたしました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (億円)

	2012年3月期 第2四半期 (2011.4.1~2011.9.30)	2011年3月期 第2四半期 (2010.4.1~2010.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6	517
投資活動によるキャッシュ・フロー	△276	△23
財務活動によるキャッシュ・フロー	81	△628
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,971	4,316

主要経営指標

	2012年3月期 第2四半期末 (2011.9.30現在)	2011年3月期 期末 (2011.3.31現在)
ネット有利子負債	7,279億円	7,006億円
ネットDER(負債倍率)	2.3倍*	2.1倍*
自己資本比率	15.0%*	15.6%*

*少数株主持分を除いて計算しています。

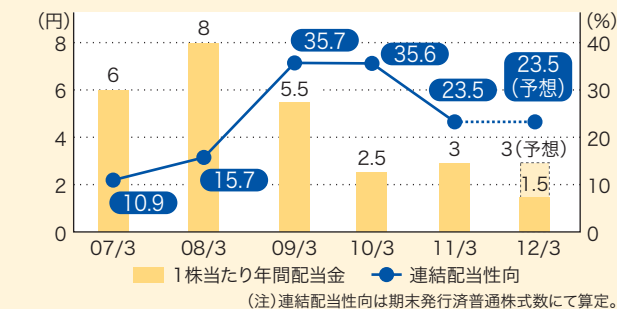
ネット有利子負債およびネットDER



利益配当金

2012年3月期の中間配当金は、期初の予定どおり、1株当たり1円50銭といたしました。また、年間3円(中間1円50銭・期末1円50銭)の配当見通しも変更しておりません。

1株当たり年間配当金・連結配当性向推移



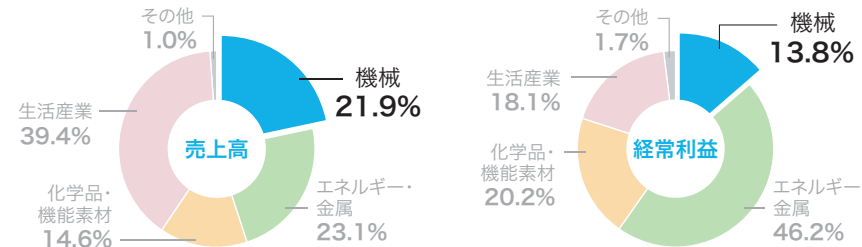
(注)連結配当性向は期末発行済普通株式数にて算定。

事業セグメント別情報

機械部門



■ 事業セグメント別構成比 2012年3月期第2四半期



主要事業	(億円)	
	11/9	10/9
自動車	4,815	4,528
インフラプロジェクト・産機	331	274
産業情報	33	6
船舶・宇宙航空	16	6

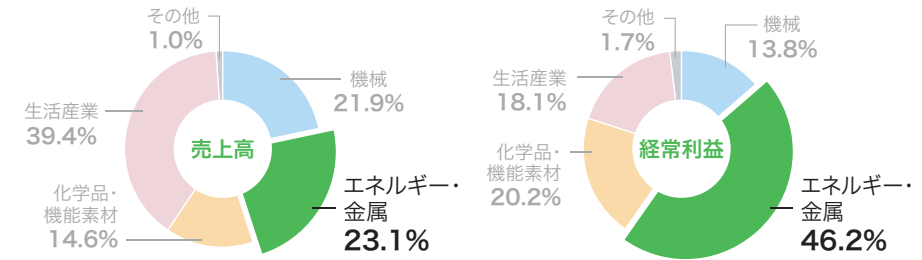
決算のポイント

中南米、ロシア・NISの自動車事業子会社の販売台数増加等により増益。

エネルギー・金属部門



■ 事業セグメント別構成比 2012年3月期第2四半期



主要事業	(億円)	
	11/9	10/9
エネルギー・原子力	5,076	4,854
石炭・非鉄金属	231	192
鉄鋼・製鉄原料	110	132
環境・新エネルギー	99	99

決算のポイント

石油や石炭の価格上昇および生産量の増加等により売上総利益は増益。前年同期に一時的な利益が発生したバイオエタノール生産会社や鉄鋼製品需要減少の影響を受けた鉄鋼関連会社等の持分法投資利益が減少し、経常利益は減益となるが、投資有価証券売却益等により当期純利益は横ばい。

TOPICS 》》 ドイツでメガソーラー事業を開始

当社は、再生可能エネルギー先進国のドイツで、大規模太陽光IPP(独立発電事業者)事業を開始します。約80ヘクタール(東京ドーム約20個分)の土地に発電所を設置、発電能力は24メガワットと同国で最大級のメガソーラー事業となります。またドイツの電力公社と20年間の長期売電契約を締結し、固定価格買取制度に定められた価格で販売します。また、2010年よりドイツ南部でも、発電能力3メガワットの太陽光発電事業を進めており、今回の案件は当社として2例目となります。これらの太陽光発電事業で得たノウハウを活かし、太陽光バリューチェーンの構築を進めるとともに、その他の再生可能エネルギー事業にも取り組んでいきます。



ドイツ・ミックスドルフの太陽光発電所

TOPICS 》》 中国にて石灰製造事業に参画

当社と、宇部マテリアルズ株式会社は、青陽海億鉱業化工有限公司(以下、青陽海億社)に出資し、中国における石灰石資源の確保をするとともに、石灰製造事業に参画します。石灰製品の世界需要は2009年で約3億トン、そのうち約2億トンが中国の需要ですが、中国では経済の発展とともに年率約10%で需要が拡大しています。同事業で生産した石灰製品は主に、中国国内の工業地域で販売し、韓国、台湾などへの輸出も行います。青陽海億社は、今後10年以内には、現在の年間12万トンから70万トンまで生産を拡大する計画です。さらに、アジア地域への事業拡大の検討を進めており、インドや東南アジアなどでも生産拠点を拡大し、アジア地域におけるトップシェアを目指します。



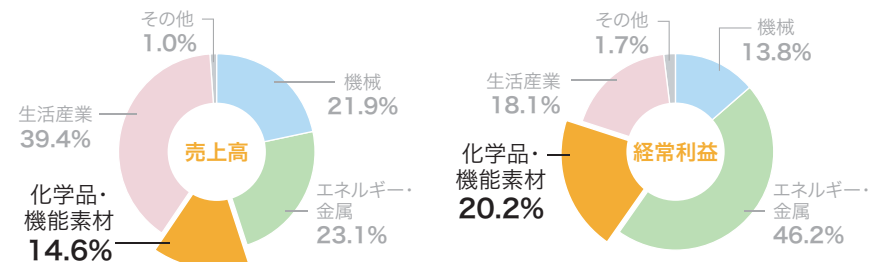
青陽海億社の石灰鉱山

事業セグメント別情報

化学品・機能素材部門



■ 事業セグメント別構成比 2012年3月期第2四半期



主要事業	(億円)	
	11/9	10/9
■ 化学品		
■ 機能素材		
売上高	3,198	3,010
売上総利益	193	185
経常利益	48	37
当期純利益	30	20

決算のポイント

主にアジア地域の需要増加による取扱数量増加、販売価格上昇等により増益。

TOPICS 》 本格派エイジングケア化粧品「クロノレスト (Chronorest)」を販売開始

当社の100%子会社の双日コスメティックス株式会社は、自然派化粧品「ナチュレシア」、アミノ酸に着目したエイジングケア化粧品「アミージュ」に引き続き、高付加価値化粧品ブランド「クロノレスト (Chronorest)」の販売を開始しました。心の潤いが女性にもたらす効果に着目し、五感に響く「贅沢時間」をコンセプトにカネボウコスミリオン株式会社と共同企画した新しいエイジングケアブランドです。

消費者ニーズに向き合い、多数のブランドを送り出してきた経験を基に今後も新たな化粧品ブランドの開発を行うとともに、主力である生協市場での販売に加え、通信販売をはじめとする消費者と直結した販路の拡大を強化していきます。

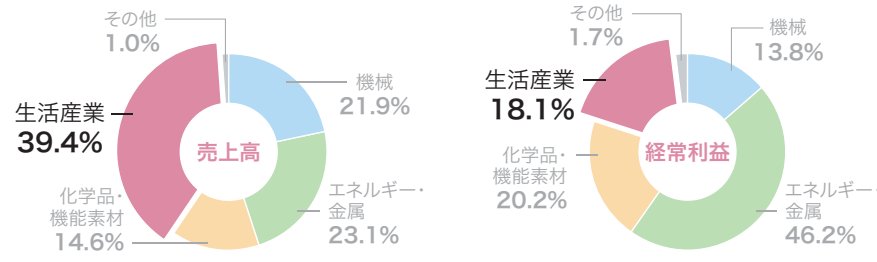


新商品の「クロノレスト (Chronorest)」
(左から、化粧水、美容液、クリーム)

生活産業部門



■ 事業セグメント別構成比 2012年3月期第2四半期



主要事業	(億円)	
	11/9	10/9
■ 食料資源		
■ コンシューマーサービス		
■ 林産資源・不動産		
売上高	8,639	7,003
売上総利益	256	258
経常利益	43	27
当期純利益	31	8

決算のポイント

木材関連取引等の増加はあるものの、海外肥料事業のタイにおける価格統制の影響等により売上総利益は微減。一方、販管費、営業外収支等の改善により、経常利益、当期純利益ともに増益。

TOPICS 》 ベトナムでの取り組み強化

当社は、ホーチミン市近郊、ドンナイ省に工業団地を設立します。陸・海・空すべてのアクセスに優れ、将来的には高速道路インターチェンジや新国際空港からも利便性の高い立地となる予定です。ベトナムは約6%の高いGDPの成長率を維持し、人口の75%が40歳以下と豊富な労働力があることから、すでに多数の企業から進出の引き合いを得ています。

また、当社は、配合飼料の生産・販売を行う新会社(双日協同飼料会社)を設立、日系企業としては初めて飼料事業に参入しました。食肉需要は年率約10%で増加しており、飼料分野は大きな成長が見込める市場です。これにより従来から進めている食料分野のバリューチェーン構築をさらに強化します。



ホーチミン近郊の工業団地

双日では、長期安定収益源の確保を目指し、エネルギー・金属資源分野の拡充に注力しています。中期経営計画『Shine 2011』の期間中における、その取り組みと成果を振り返ってみました。

特集

Special Feature



エネルギー・金属資源 権益拡充への取り組み



豪州/レイク・バーモント炭鉱



カナダ/ジブラルタル銅鉱山



米国/フェニックス油田



ブラジル/ETH社工場



ブラジル/CBMM社ニオブ鉱山

「エネルギー・金属資源の持分生産量拡大」と「資源品目の拡充」——。『Shine 2011』で掲げたこれらの施策に対し、前中期経営計画「New Stage 2008」で投資した権益からの生産開始、ならびに現中期経営計画における積極的な取り組みのもと、それぞれ大きな成果を挙げるに至っています。

石油・ガス・LNG分野では、ブラジル・フラージ油田、米国メキシコ湾フェニックス油田で相次いで原油生産を開始、インドネシアではタンゲーLNGプロジェクトの本格操業も開始されました。またカタールの油田に追加出資を行い、持分生産量を拡大させるとともに、米国における非在来型ガス開発への取り組みを進めています。

石炭分野では、豪州とインドネシアに優良な権益を保有しており、なかでも豪州ミネルバ炭鉱は追加取得

により96%の権益を保有し、総合会社では例の少ない炭鉱経営に進出しました。またコークスの代替として需要が高まる、高炉に吹き込まれる微粉炭（PCI炭）の安定供給を目指した豪州コドリラ炭鉱への新たな投資も、今後の市場動向を見据えた取り組みとして意義深いものといえます。

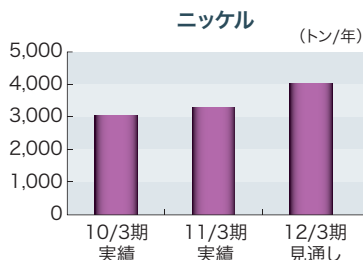
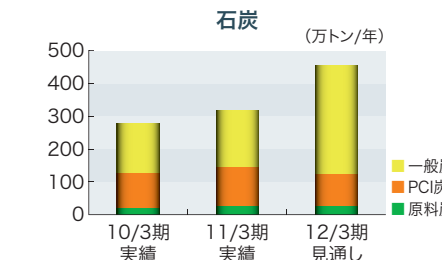
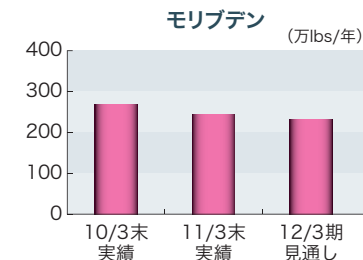
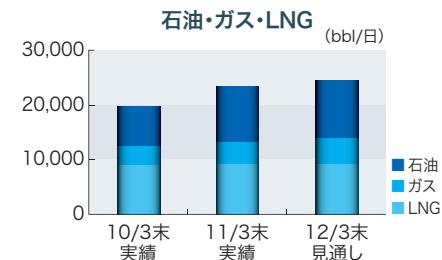
合金鉄（レアメタル）分野は、双日が世界でも抜群の知名度を誇り、まさに揺るぎないポジションを築いている分野といえます。カナダのモリブデン鉱山に生産能力増強のために追加投資するなど既存権益の拡張を進めました。また高級鋼材・特殊鋼材の生産に不可欠なニオブについては、生産量で世界のトップシェアを誇るブラジルCBMM社に投資を行うなど、双日のポジションをさらに強固なものにしました。

非鉄金属分野においては2010年3月、当社で初となる銅権益を獲得しました。カナダで生産中のジブラルタル銅鉱山です。双日ではこれに先立ちラオスでも、銅鉱床の探鉱権を取得しています。

その他の分野では、当社が出資するブラジルのETH社が、ブレンコ社との経営統合によりサトウキビ由来のバイオエタノール生産事業者として世界最大規模になる見込みです。

双日では持続的な成長に向け、今後も当社が強みを持つ分野や、今後の成長が期待できる分野への投資を通じ、エネルギー・金属資源の権益拡充を進め、資源の安定供給に取り組んでいきます。

『Shine 2011』期間中における持分生産量の推移



『Shine 2011』期間中の主な取り組みと動向

- 石油・ガス・LNG
- 石炭
- 合金鉄
- 非鉄金属
- その他

1 石油
カタール国沖合南東第一鉱区の権益比率を25%に拡大。さらに同鉱区内南部を開発し、増産に成功



2 銅
ラオス人民共和国政府と、ムン地区における銅鉱床の探鉱権を取得する契約を締結

3 LNG
インドネシア・タンゲーLNGプロジェクトのLNGが出荷を開始



4 石炭
豪州ミネルバ炭鉱の権益を96%に拡大。総合会社としては他に例の少ない直接炭鉱経営に進出

5 石炭
高品位原料炭である、豪州レイク・バーモント炭鉱の供給能力を倍増

6 石炭
製鉄用PCI炭の優良炭鉱である豪州コドリラ石炭鉱区の権益7%を新たに取得


13 石油
ブラジル北カンボス沖合フラージ油田は日本企業初のブラジルでの原油生産を開始



7 モリブデン
カナダ・エンダコ鉱山の拡張に本格着工。生産量を増強



8 銅
カナダ・ジブラルタル銅鉱山の権益を新たに取得



9 非在来型ガス
米国テキサス州カーセー陸上ガス鉱区の生産規模を倍増

10 石油
米国メキシコ湾フェニックス油田で、ハリケーンリスク対応の浮遊式生産設備を活用して原油生産を開始

11 ニオブ
高級鋼材の生産に不可欠なレアメタルであるニオブのトップ企業CBMM社に出資。長期引取契約を締結



12 バイオエタノール
ETH社とブレンコ社が戦略的事業統合。生産設備を拡充し、サトウキビ由来のバイオエタノール事業として世界最大規模に



福岡株主説明会開催のご案内

株主の皆さまへ

当社は、2012年2月、福岡で株主説明会を開催いたします。

本説明会では、当社の現状や今後の事業展開などについてご説明させていただきたいと存じます。当社をより深くご理解いただける機会になれば幸いです。多数の株主の皆さまのご参加をお待ちしております。



開催日 2012年2月13日(月曜日)
 時間 午後2時～午後4時
 場所 福岡市内のホテル
 当社出席者 取締役ほか
 お申込み方法 同封の参加申込用はがきに必要事項をご記入の上、ご投函ください。
 会場収容人数の都合上、誠に恐縮ですが、お申込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。抽選の結果は、入場票の発送をもってご当選者の発表に代えさせていただきます(入場票は、2012年1月下旬発送予定です)。ご入場は、当社から発送した入場票をお持ちの株主さまご本人限りとさせていただきます。
 お申込み締め切り 2011年12月19日(月曜日) 当社必着

ご注意

- * 個人情報保護のため、同封の保護シールのはく離紙をはがし、参加申込用はがきの個人情報記載欄の上にシールを貼りつけてから、ご投函ください。(切手は不要です)
- * 会場までの交通費は株主さまご本人のご負担となります。
- * 参加申込用はがきにご記入いただいた個人情報、議決権行使に関するご案内や、株主さま向けの活動充実のために使用させていただく場合がございます。予めご了承の上、お申込みください。

本件に関するお問い合わせ先
 TEL : 03-5520-3866
 福岡株主説明会事務局
 (平日9時30分～17時30分)

双目から株主の皆さまへアンケートのお願い

アンケート実施期間 2011年12月19日まで

当社は、株主の皆さまのお声を頂戴して、IR活動を充実させたいと考えております。つきましては、下記アンケートサイトにアクセスしていただき、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。



ご回答いただいた株主さまの中から抽選で1,000名さまにクオカード(500円分)をプレゼントいたします。※当選者の発表は、2012年1月下旬のクオカードの発送をもって代えさせていただきます。

1

アンケートサイトへの接続方法

Yahoo!やGoogle®などの検索エンジンからアンケートサイトを呼び出してください。

株主ひろば

検索

アンケートサイトのURL

<https://kabuhiro.jp/> パソコン用

<http://kabuhiro.jp/m/> 携帯電話用



携帯電話用
QRコード

2

ご回答方法

画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバーを入力して回答画面にお進みください。

個人株主向けアンケート

アンケートナンバー

アンケートナンバー

アンケート画面に進む

このアンケートは、諸費用(郵便料金など)の削減と集計作業の迅速化を目的として、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しています。

ご回答の操作方法などのお問い合わせ先

株式会社アイ・アール ジャパン 株主ひろば事務局

0120-266-203 E-mail: inquiry@kabuhiro.jp

平日 10:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00 (2011年12月19日まで)

【ご注意】

- ※入力いただいた個人情報は、議決権行使に関するご案内や、株主さま向けの活動充実のために使用させていただく場合がございます。予めご了承の上、ご回答ください。
- ※アンケートサイトをご利用いただく際のプロバイダーへの接続料金および通信事業者への通信料金(電話料等)は、株主さまのご負担となります。

会社情報

会社概要 (2011年9月30日現在)

会社名	双日株式会社
英文名	Sojitz Corporation
設立	2003年4月1日
資本金	160,339百万円
事業目的	総合商社
本社所在地	〒107-8655 東京都港区赤坂六丁目1番20号 TEL: 03-5520-5000 FAX: 03-5520-2390
URL	http://www.sojitz.com/jp/index.html http://www.sojitz.com/jp/ir/individual/index.html (個人株主・投資家の皆さまへ)
拠点数	国内 7(支店、国内法人等) 海外 91(現地法人、駐在員事務所等)

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎事業年度終了後3カ月以内
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL: 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 大阪証券取引所(証券コード: 2768)
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.sojitz.com/jp/koukoku/index.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に 公告いたします。)

役員 (2011年9月30日現在)

代表取締役会長	土橋 昭夫 ①
代表取締役副会長	橋川 真幸 ②
代表取締役社長	加瀬 豊 ③
代表取締役副社長執行役員	佐藤 洋二 ④
代表取締役副社長執行役員	寺岡 一憲 ⑤
取締役(非常勤)	指田 禎一 ⑥
取締役(非常勤)	長島 徹 ⑦
監査役	鴫田 和彦 ⑧
監査役	塚田 尚 ⑨
監査役	小森 晋 ⑩
監査役(非常勤)	町田 幸雄 ⑪
監査役(非常勤)	湯浅 光章 ⑫

※右ページ写真をご参照ください。

これからも双日グループを よろしくお願い申し上げます

